



BM かんこう立平葺 デコルーフ 施工マニュアル



BM かんこう立平葺
デコルーフ
施工マニュアル



目次

1. 取り扱い時のお願い	1p
2. 2-1. 性能試験	2p
2-2. 雨音騒音レベル測定結果	3p
3. 施工工具一覧表	4p
4. 製品特徴	5p
5. 5-1. 本体の仕様	6p
6. 標準役物	7p
7. 新築屋根施工	
7-1. 施工手順	11p
7-2. 新築屋根下地	12p
7-3. 防水紙の施工	13p
7-4. 施工・納めの各部位	14p
7-5. 本体の施工(参考)	15p
7-6. 各部の納め[新築用](参考)	16p
8. 施工後の注意[点検・補修・清掃]	31p

1. 取り扱い時のお願い

安全上の注意／移動・荷揚げ時の注意／残材処理

施工前に、この説明書を必ずお読みの上、正しく施工してください。
現場作業においては労働安全衛生法をはじめとする
関係法令・規則及び当社施工マニュアルに則り作業を行ってください。

安全上の注意

	警告	この表示の欄は死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
--	-----------	---------------------------------

1. 屋根工事は高所作業です。
高所作業は関係法規に従ってください。事故の可能性があります。
2. 強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。
風にあおられる・雨や雪で滑るなどの原因で、落下事故の可能性があります。
3. 屋根材を荷揚げ・一時仮置きの際は滑り落ちないように固定する等、滑落防止措置をしてください。

	注意	この表示の欄は障害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。
---	-----------	---

1. 施工前に屋根材を置くときは、堅固で平らな場所に、水平においてください。崩れ落ちると危険です。
2. 取り扱いには手袋等適切な保護具を着用してください。
3. 電動工具など、工具の使用の際は、各工具の取り扱い説明書に従って正しくご使用ください。
4. 整理・整頓等公衆災害の防止に心掛けてください。
5. 作業前に健康状態の確認、及び作業規律の徹底を行ってください。

移動・荷揚げ時の注意

	警告	この表示の欄は死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
--	-----------	---------------------------------

1. 荷揚げにクレーンを使用する場合は、クレーン作業半径内に立ち入らないでください。
強風雨時の荷揚げは絶対禁止です。
2. 適正な吊り具を使用し、当て板等を用いてロープ掛けによる損害を防いでください。
3. 製品の表面は滑りやすいので、製品の上に乗ったり歩行したりしないでください。転落する危険があります。
4. 屋根上に荷揚げした製品は、長時間放置せずに、速やかに施工してください。風雨により荷崩れする恐れがあります。

	注意	この表示の欄は障害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。
---	-----------	---

1. 手で扱う場合は必ず軍手・皮手を使用してください。製品のエッジ部は鋭利になっています。切傷の危険があります。
2. 輸送中は荷崩れを起こさない様、布バンド等で荷締めしてください。その時必ず当て木をしてください。
3. 輸送・保管中は必ず製品に養生シートを掛けてください。
風雨により製品本来の性能が劣化する危険があります。
4. 使用するまでは、屋内の平らな場所に枕木やパレットを敷いてその上に保管してください。日光や風雨により製品が変質する恐れがあります。
5. 製品表面に傷をつけるような靴の使用はやめてください。
6. 屋根に上がる時は、靴底の泥を落としてから上がってください。

移動・荷揚げ時の注意

残材は【廃棄物の処理及び清掃に関する法律】に基づき処理をしてください。

2-1. 性能試験



強度不足により屋根が飛散する恐れがありますので、
建告一平成12年1458号、1454号に定める風圧力が
不明な場合は最寄の営業担当までご相談ください。

【デコルーフH25】

■耐風圧性試験 (1kgf≒9.80665N)

試 験 場 所	日鉄住金鋼板株式会社 尼崎製造所 建材開発センター		
試 験 日	平成21年10月1日		
試 験 体	屋根材	1, 950mm×1, 950mm	
		ニスクカラー鋼板 t=0. 4mm	
	架台	2, 100mm×2, 100mm	
	減圧補助材	ビニールシート	
試 験 機	形式気密箱式・最大加圧: ±1000kgf/㎡		
破 壊 荷 重	8, 825. 2N/㎡(900kgf/㎡)		
許 容 荷 重	4, 412. 9N/㎡(450kgf/㎡)		

【デコルーフH30】

■耐風圧性試験

試 験 場 所	日鉄住金鋼板株式会社 尼崎製造所 建材開発センター		
試 験 日	平成25年5月16日		
試 験 体	屋根材	1, 950mm × 1, 950mm	
		ニスクカラー鋼板 t=0. 4mm	
	架台	2, 100mm × 2, 100mm	
	減圧補助材	ビニールシート	
試 験 機	形式気密箱式・最大加圧: ±10000N／m ²		
破 壊 荷 重	9, 000N／m ²		
許 容 荷 重	4, 500N／m ²		

■送風散水試験

試験場所	日鉄住金鋼板株式会社 尼崎製造所 建材開発センター		
試験日	平成25年8月28日		
試験体寸法	屋根材	1, 400mm×2, 000mm	
	防水材	ニスカカラー鋼板 t=0. 35mm	
	野地板	透明アクリル板 t=6. 0mm	
試験機	送風散水水密試験装置		
	散水量	4ℓ/min/㎡(降水量240mm/hに相当)	
試験結果	風速30m/s 5分間漏水なし(ホットメルトなし)		

※上記試験は、本体のみの水密性の確認であり、屋根構成の
一般的評価としては2次防水(野地板+防水シート)を含みます。

■動風圧/送風散水水密試験装置



2-2. 雨音騒音レベル測定結果

デコルーフの雨音騒音レベルを測定

試験日………2016年6月22日・23日・24日

試験場所………日鉄住金鋼板(株) 尼崎製造所

「雨音騒音試験装置」

試験体………デコルーフH30-455(下図の3種類を製作)

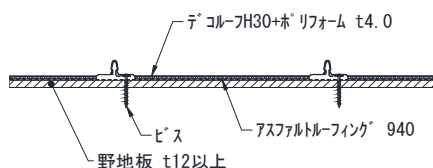


図1 新築工法(ポリ付)

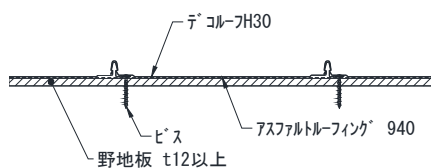


図2 新築工法(ポリなし)

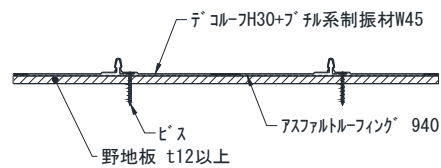


図3 新築工法+制震材

試験方法

1. 降雨装置

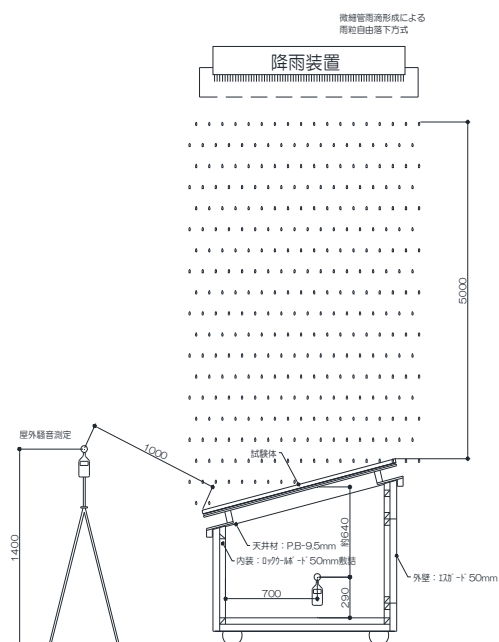
- ・ 微細管雨滴自由落下方式
- ・ 降雨面積 1950mm×1950mm
- ・ 降雨量 50mm/Hr

2. 騒音計

- ・ リオン社製 普通騒音計 NL-42

3. 実験BOX

- ・ 約W1600mm×D1400mm×H700mm
- ・ 壁・床／エスガード+内装／ロックウール仕上げ



試験結果

(社)日本建築学会による室内騒音レベルの推奨値「40dbA以下」を降雨量50mm/Hr(気象庁ではバケツをひっくり返したような激しい雨)でもほぼ推奨値です。

又、制震材(オプション)付きの屋根では室外で発生する雨軽減されており、直上に部屋のある下屋などに使用しても軽減効果が期待出来ます。

	新築工法			◆屋外	■天井裏	△室内
	ポリ付	ポリなし	制震材	他工法		
騒音レベルdb(A)	◆59.6	◆59.3	◆56.6	◆52.3	◆54.3	
	△40.6	△42.0	△41.7	△39.1	△34.9	
		デコルーフ		平形スレート	日本瓦葺土無	

3. 施工工具一覧表

のこぎり



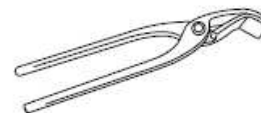
金槌



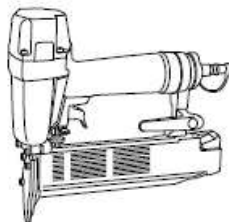
金切鋏



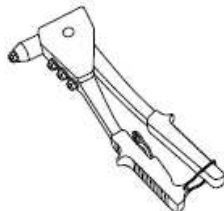
つかみ鋏



エアードリル



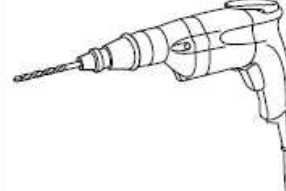
ハンドリベッター



充電ドライバー



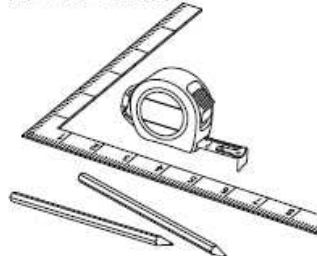
電気ドリル



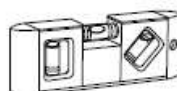
チョークライン



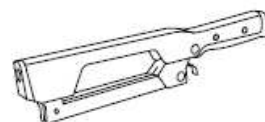
曲尺・巻尺・色鉛筆



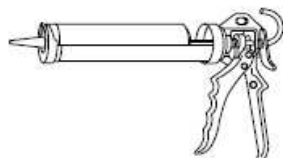
水準器



ハンマータッカー



コーキングガン



電気コード



安全めがね・ゴム底の靴



4. 製品特長

意匠

屋根板溝部をフラット・横さざ波・縦リブ・縦さざ波S・Lの5タイプから選択できる、高い意匠性。

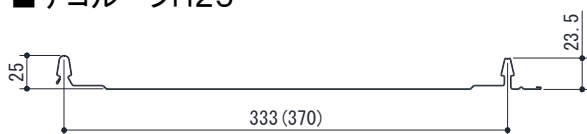
遮音性

オプションの制震材を裏面に施すことで、優れた雨音の減少を実現しました。

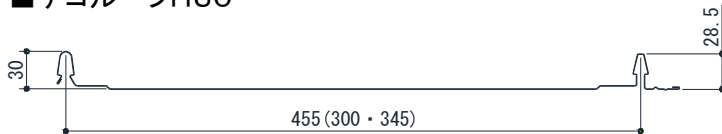
防水性

嵌合部の上重ねハゼ内部にホットメルトタイプのシーリング材を充填し、強風、豪雨、積雪時に高い性能を発揮します。

■デコルーフH25



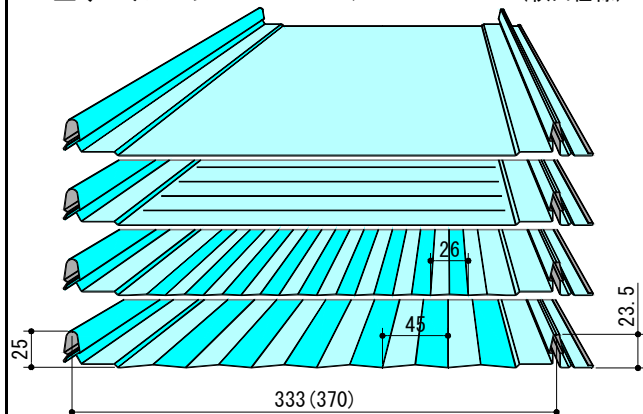
■デコルーフH30



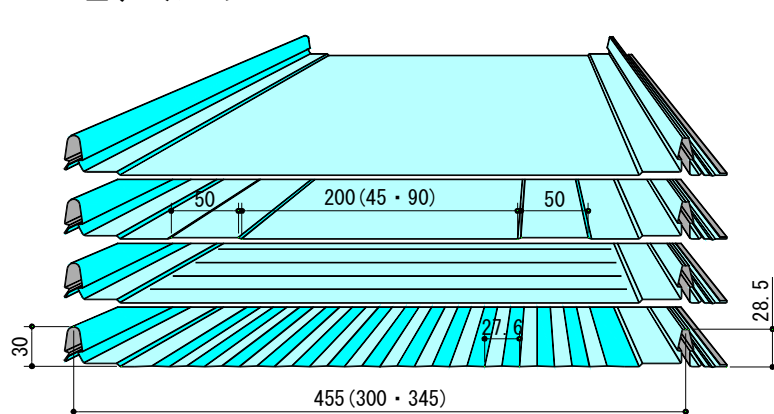
5. 本体

5-1 本体の仕様

■デコルーフH25-333／H25-370(秋田仕様)



■デコルーフH30-455



■本体構成

使用材名		仕様・規格
表面材	素材	日鉄住金鋼板 「エスジーエル®・ガルバリウム鋼板®」
	色	ニスクカラーSGL®・ニスクカラー® 全色に対応※カーステンレスも加工 可能です。 詳しくはお問合せください。
裏貼り材	断熱材	ポリエチレンフォーム 又はフネンエース 厚さ 4mm ※注1

※注1：裏貼り対応の形状はフラット・横さざ波となります。

■標準仕様

	デコルーフH25-333／370	デコルーフH30-455
形状タイプ	フラット・横さざ波・縦さざ波S・縦さざ波L	フラット・縦リブ・横さざ波・縦さざ波S・縦さざ波L
使用材料	鋼板(GL・SGLベース)：0.4mm～0.5mm／ステンレス鋼板：0.4mm	
働き幅	333mm・370mm	455mm
m ² 当りのm数	3m(H25-333)／2.71m(H25-370)	2.2m
m当りの重さ	1.52kg(H25-333)／1.67kg(H25-370)	2.04kg
屋根勾配	5／100以上	
成型長さ	min1000mm／max ご相談ください	
最小曲げ半径	6m以上(フラットタイプを除く)	
ハゼ部の高さ	25mm	30mm
母屋間隔	606mm以下	
固定ビス	鉄骨下地 ドリルねじ 木造下地 タッピングねじ	ビスサイズ及び固定ピッチは強度計算による(専用ビスを用意しています)

6. 標準役物

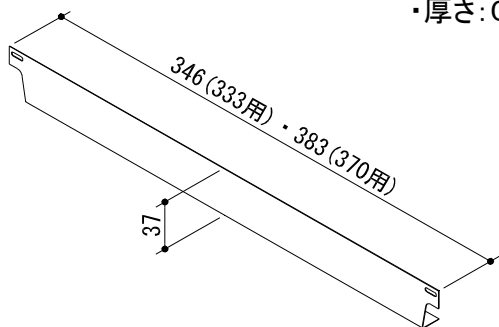
標準付属部品



【デコラーフ】施工マニュアル

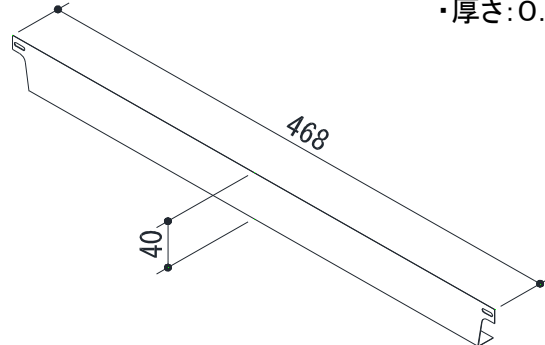
棟エブロン H25-333(370)

・厚さ: 0.4mm

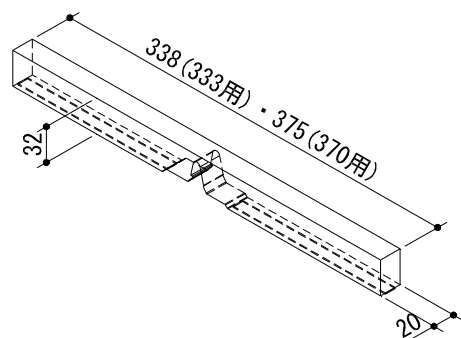


棟エブロン H30-455(300・345)

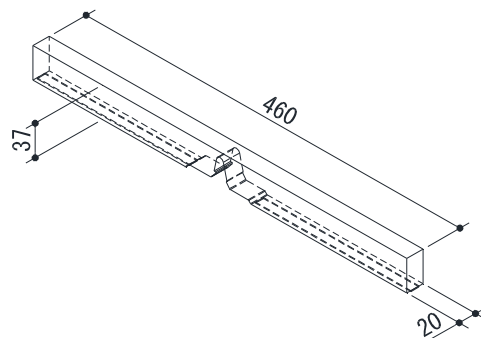
・厚さ: 0.4mm



ケミカル面戸 H25-333(370)

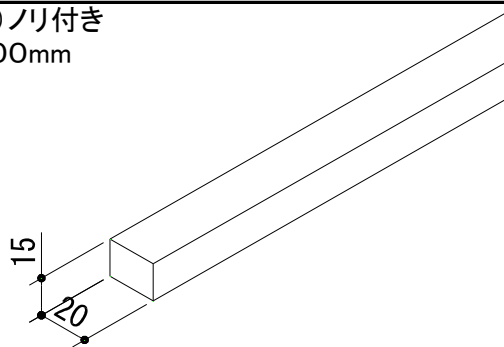


ケミカル面戸 H30-455(300・345)



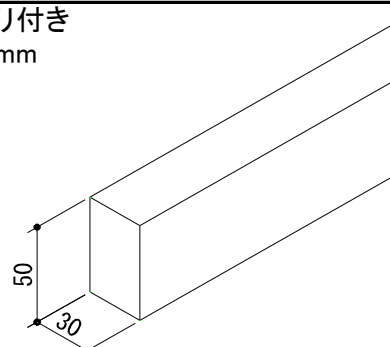
棟金具仕様ケミカル面戸高さ調整

- ・(EPDM)ノリ付き
- ・L=2000mm



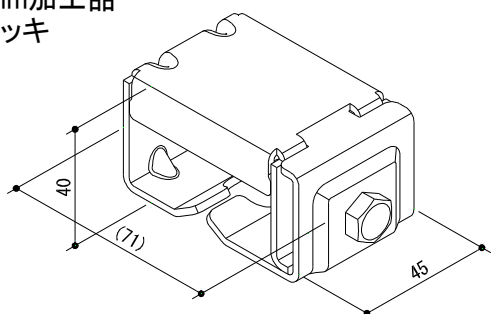
下り棟用面戸

- ・(EPDM)ノリ付き
- ・L=2000mm



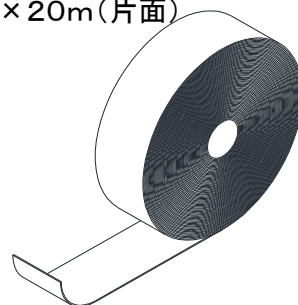
棟金具

- ・PL-2.3mm加工品
- ・溶融亜鉛メッキ



板金用ブチルテープ

- ・0.5mm×30mm×20m(両面)
- ・0.5mm×100mm×20m(片面)



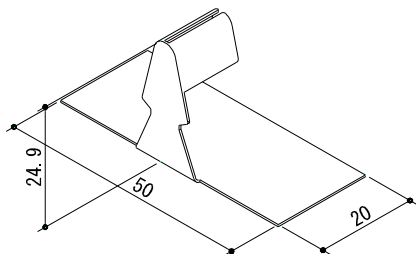
6. 標準役物

標準付属部品

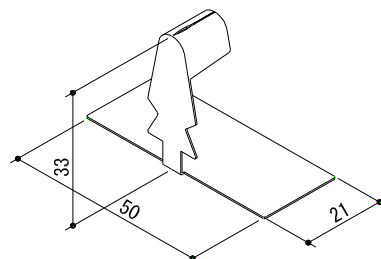


【デコルーフ】施工マニュアル

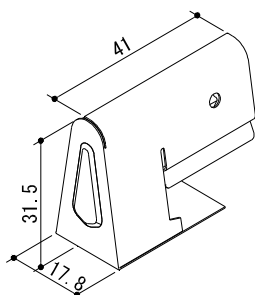
先付け内サンパナ H25-333(370)



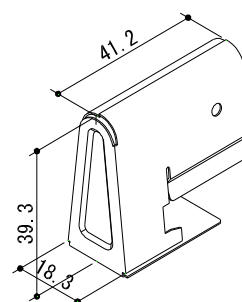
先付け内サンパナ H30-455



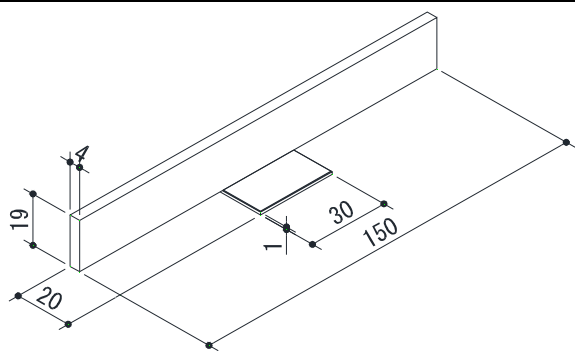
後付け外サンパナ H25-333(370)



後付け外サンパナ H30-455(300-345)



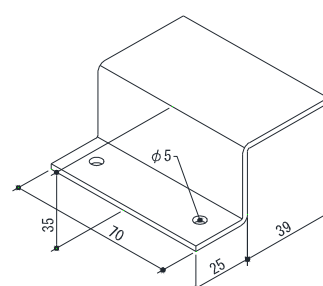
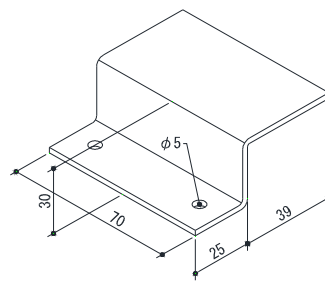
金具取付用スペーサー



棟板下地金物

(H25-333用)

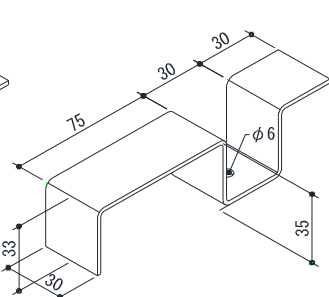
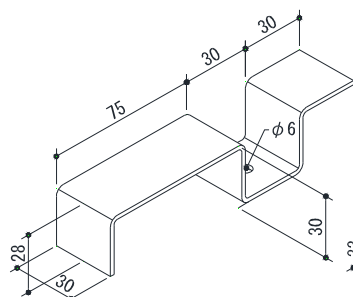
(H30-455用)



雨押え金物

(H25-333用)

(H30-455用)



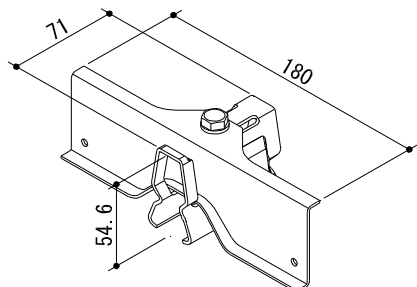
6. 標準役物

付属部品

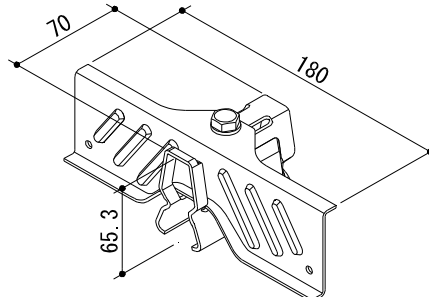


【デコラーフ】施工マニュアル

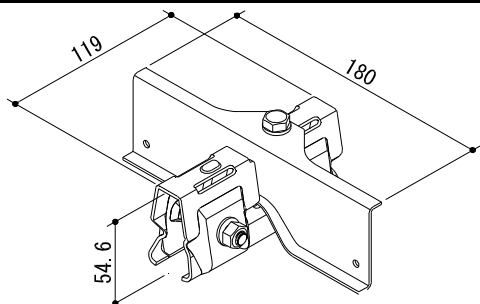
雪止金具シングルタイプ:羽 H25-333(370)



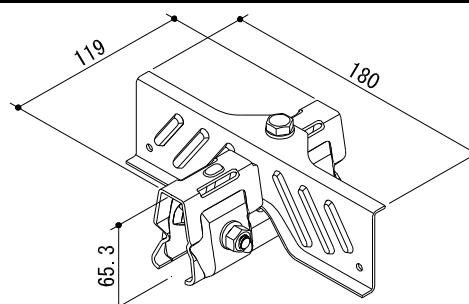
雪止金具シングルタイプ:羽 H30-455



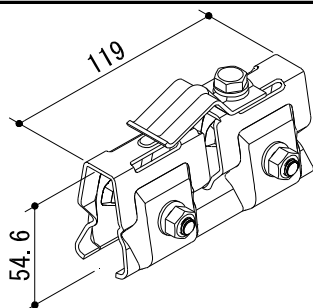
雪止金具ダブルタイプ:羽 H25-333(370)



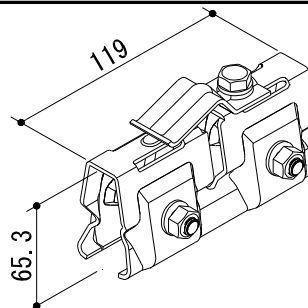
雪止金具ダブルタイプ:羽 H30-455



雪止金具ダブルタイプ:アングル H25-333(370)



雪止金具ダブルタイプ:アングルH30-455



■専用ビス

薄板用防水ビス	鉄骨下地用ビス	木下地用ビス(ノンヘッド)	木下地用ビス
材質: 鋼製	材質: 鋼製・SUS410	材質: 鋼製・SUS410	材質: 鋼製
表面処理: SUS410	表面処理: 三価ユニクロ	表面処理: 三価ユニクロ	表面処理: 三価ユニクロ
サイズ: 4.5 × 16	サイズ: 5 × 35 × 45	サイズ: 4.6 × 25 × 45	サイズ: 4.6 × 25 × 46

※TECネイル(ステンレスカラー釘:平頭Rスクリュー)

ニスクカラーに合わせて全色用意しています。(在庫は最寄の営業所に御確認ください)

＃14 × 32mm(1kg入／約1000本) ＃14 × 38mm(1kg入／約850本)

6. 標準役物

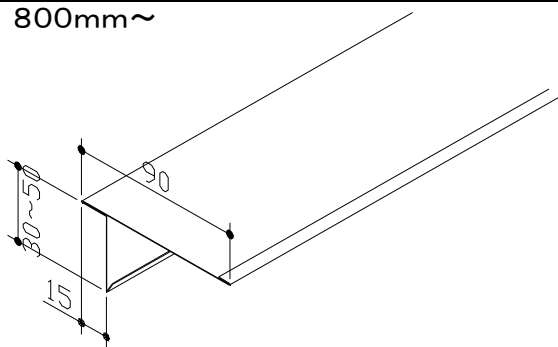
付属部品



【デコルーフ】施工マニュアル

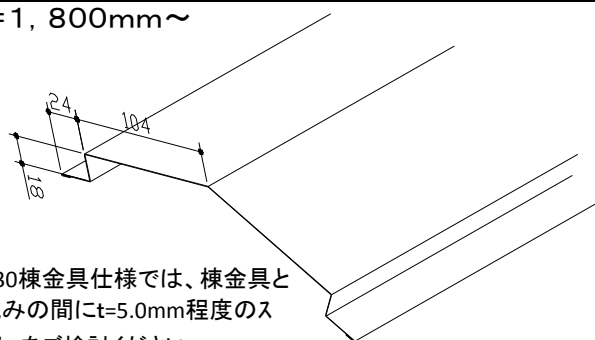
軒先けらば唐草

・L=1,800mm～



棟包み

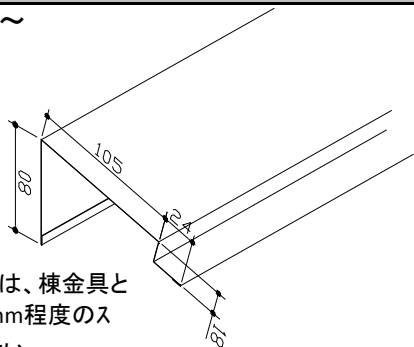
・L=1,800mm～



※H30棟金具仕様では、棟金具と棟包みの間にt=5.0mm程度のスペーサーをご検討ください。

片棟包み

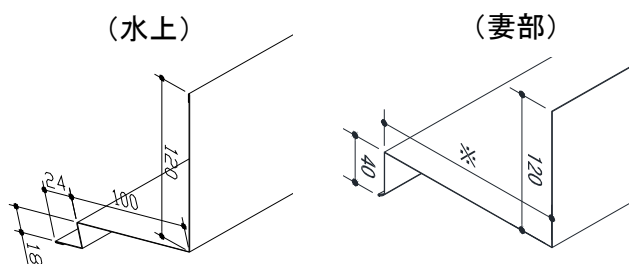
・L=1,800mm～



※H30棟金具仕様では、棟金具と棟包みの間にt=5.0mm程度のスペーサーをご検討ください。

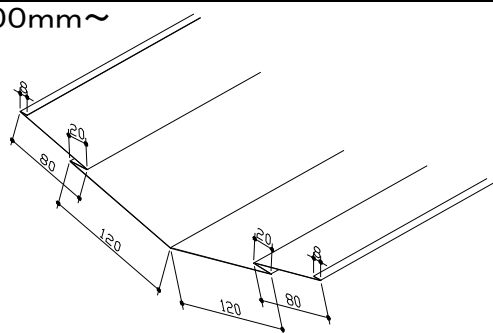
雨押え

・L=1,800mm～



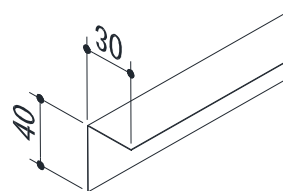
谷板(W本谷)

・L=1,800mm～



隅棟用エプロン(別注加工品)

・L=1,800mm～



立下げ機



掴み込み機

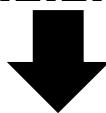


7. 新築屋根

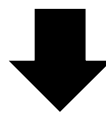
7-1 施工手順

防水紙貼り

防水紙は、アスファルトルーフィング940品以上のものを使用し、重ね代は鉛直(上下)方向では、100mm以上、水平(左右)方向では200mm以上としてください。
(『7-3防水紙の施工』をご参照ください。)

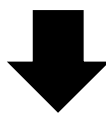


墨出し



各部の施工

各部の施工及び納め方は、『各部納まり』をご覧になって適切に行ってください。



検査(補修)・クリーニング

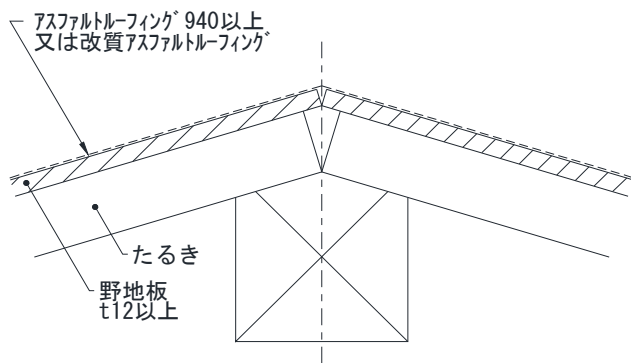
ルーフについた傷の補修や、ルーフのクリーニングは『施工後の注意』をご覧になって適切に行ってください。

7. 新築屋根

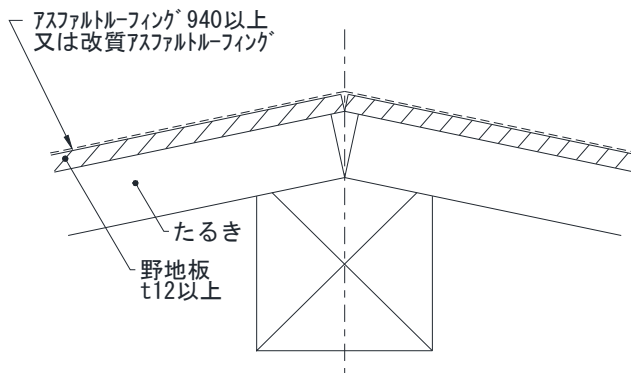
7-2 新築屋根下地

1. 屋根勾配は「5/100」以上取ってください。
2. 下葺き材のアスファルトルーフィングは、『7-3 防水紙の施工』に従い確実に施工してください。
以下『各部の納まり』をご覧になって適切に行ってください。なお雨天時及び下地が湿潤している時は施工は避けてください。

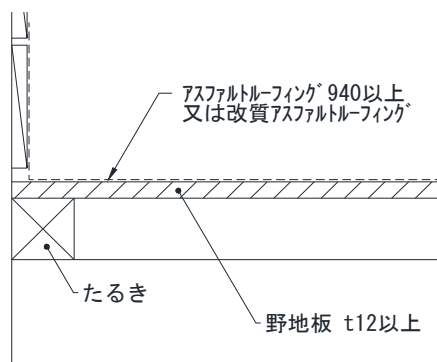
主棟部



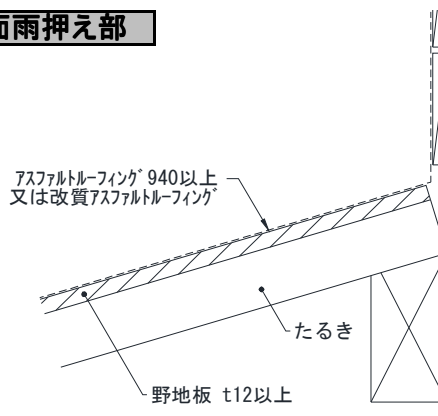
隅棟部



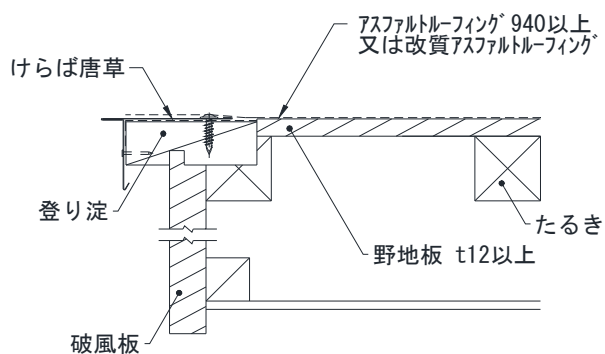
側面雨押え部



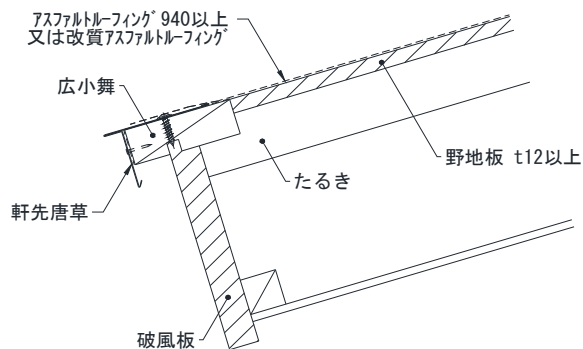
正面雨押え部



ケラバ部



軒先部

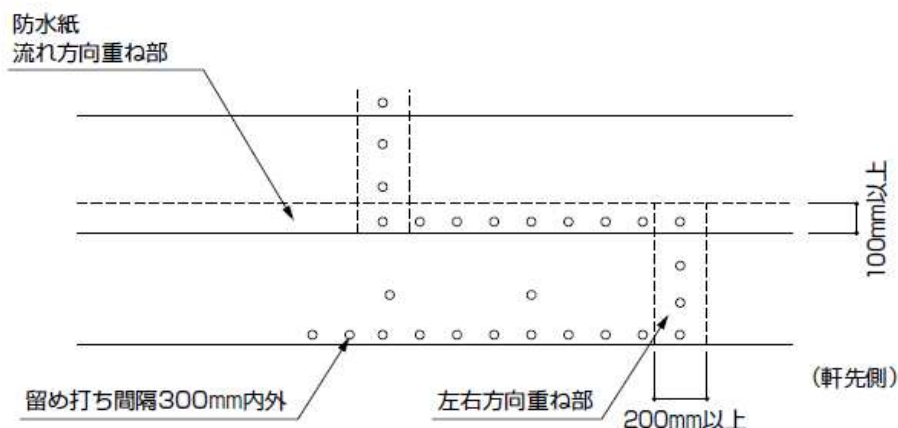


7. 新築屋根

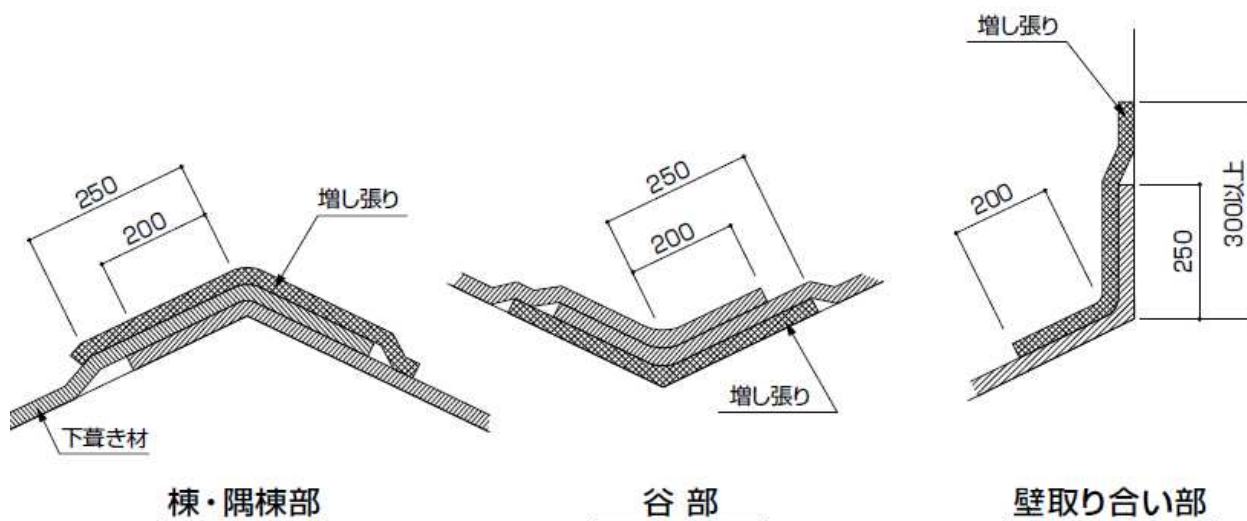
7-3 防水紙の施工

雨漏り防止の為には絶対必要なものです。必ず下記を厳守してください。

- (1) アスファルトルーフィング940品と同等以上の性能の防水紙を使用してください。
- (2) 重ね代は左右方向200mm以上、上下方向100mm以上取ってください。
- (3) 谷部及び棟部は、谷底及び棟頂部より両方向へそれぞれ250mm以上重ね合わせてください。
- (4) 屋根面と壁面立上げ部巻き返し長さは、250mm以上かつ雨押え上端より50mm以上とってください。
- (5) 下葺き端部は、はがれ等が生じやすく、漏水事故につながりやすいので、壁面立上げ部、谷部及び棟部は増し張りを行ってください。



重ね合わせ部

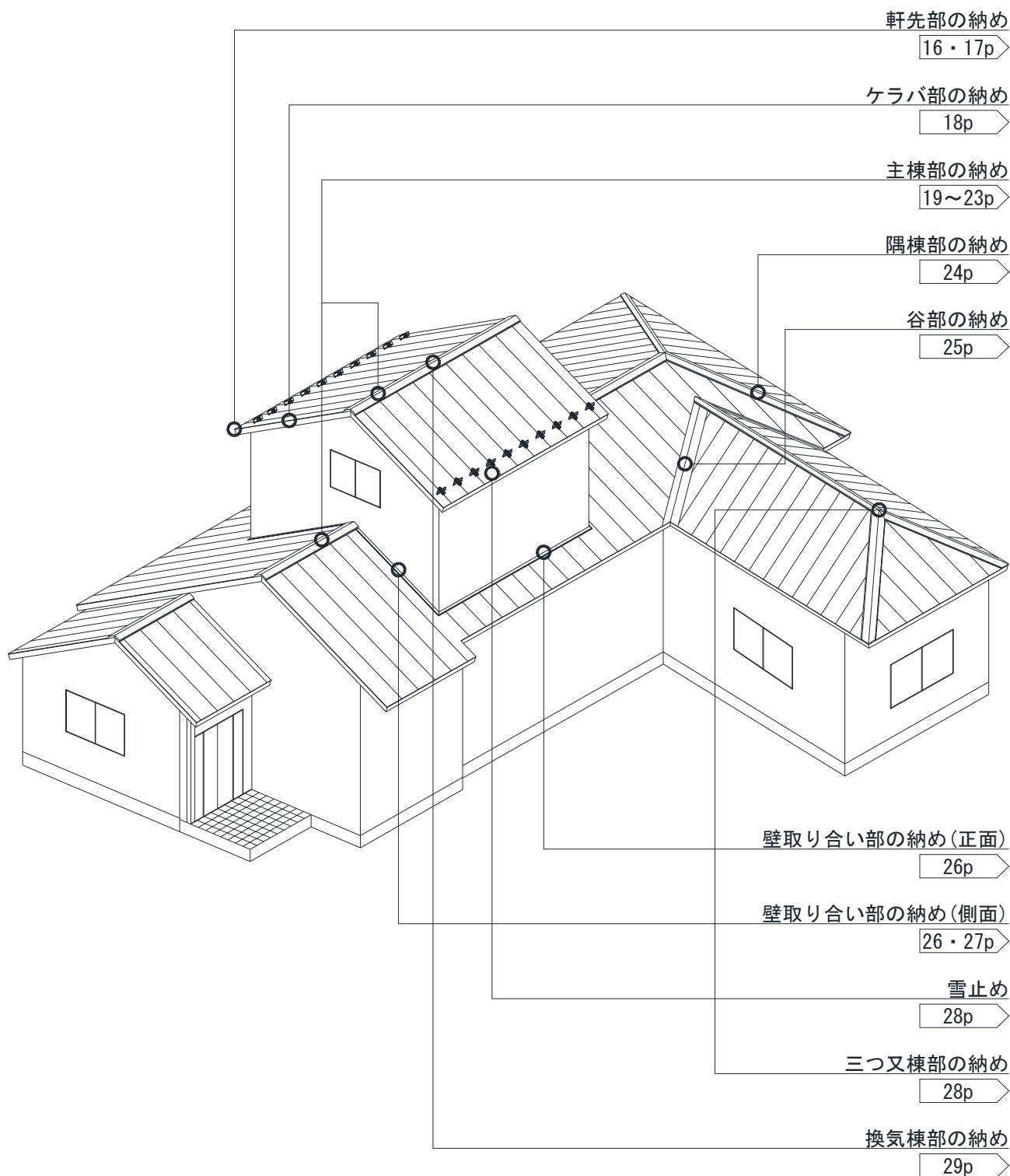


⚠ 注意 下地が湿潤している時や雨天時の敷き込みは避けてください。

7. 新築屋根

7-4 施工・納めの各部位

屋根工事を行うには、各部の標準的な納め方を参考にし、現場に応じた施工計画を立てて進めてください。

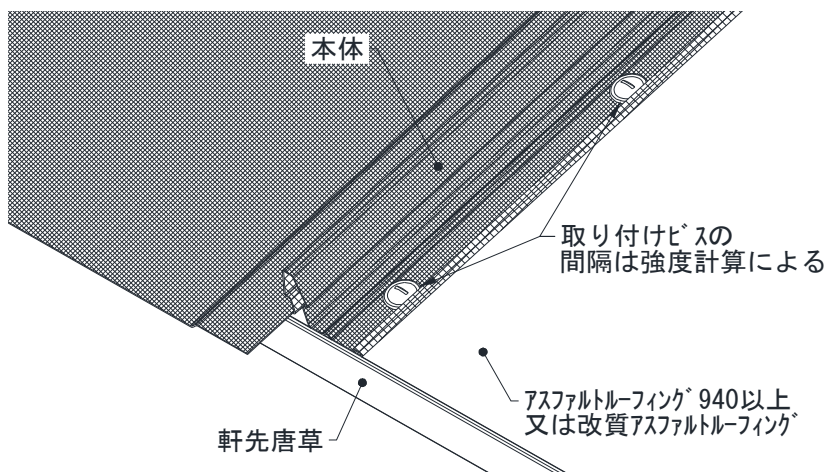


7. 新築屋根

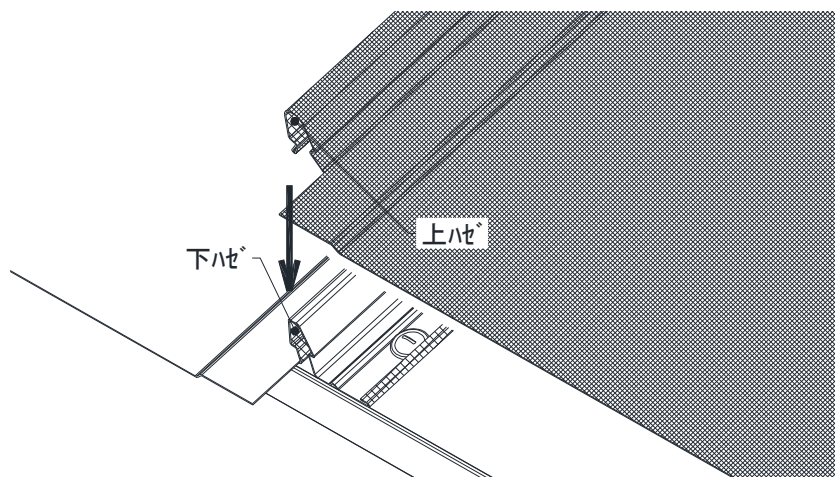
7-5 本体の施工(参考)

本体は左右どちらの葺き方向でも施工が出来ます。

軒先は下図のようにつかみ込み代を残して成型加工が出来ます。



下ハゼ側の面材端部をビス止めし、上ハゼを嵌合します。



手順

- ① 割付に合わせて本体を葺きます。
- ② 本体の板厚やリブ加工形状により、働き幅に若干の差異が生じますので割付に合わせて調整してください。
- ③ 軒先の出寸法に不揃がないよう注意してください。
- ③ 軒先切り欠き加工の場合、下ハゼ端部を軒先唐草先端に合わせてください。(つかみ代=18mm)
- ④ ファスナー間隔は、強度計算により安全性を確認し、決定してください。
- ⑤ 固定した下ハゼと上ハゼを合わせて、本体の両端が揃っている事を確認しながら、軒先側より上ハゼの上部を軽く足で踏み込み嵌合させてください。

⚠ 注意

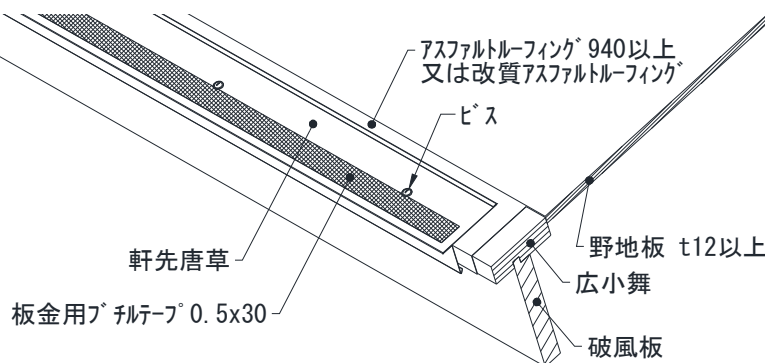
- 嵌合部は、横から押し込んだり、あまり強く踏み込まないでください。
- 金具取付用スペーサーの無い部分に金具を取付け、強く締めこむ事は避けてください。(漏水又は、強度低下の原因となる可能性があります。)

7. 新築屋根

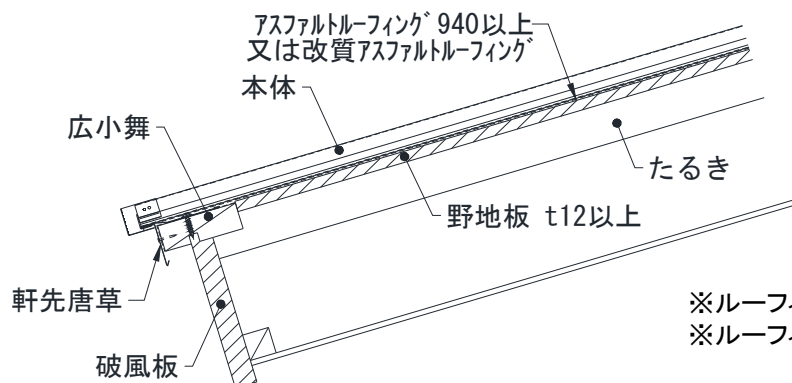
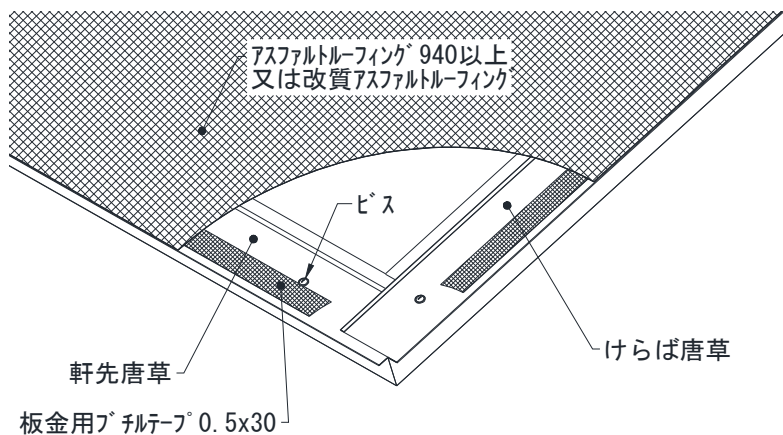
7-6 各部の納め[新築用](参考)

軒 先

予め広小舞にルーフィング防水紙を敷き込み、軒先唐草をファスナーにて取り付けください。



軒先及びケラバ唐草の捨て水切り部に板金用防水テープ(両面)を貼り、ルーフィングの端部を固定してください



※ルーフィングは軒先唐草の上に被せるように敷いてください。
※ルーフィングの端部は両面防水テープで固定してください。

7. 新築屋根

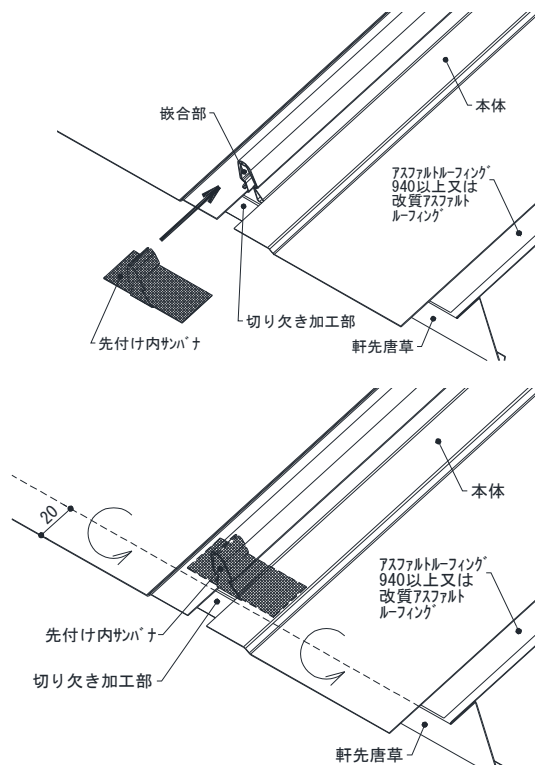
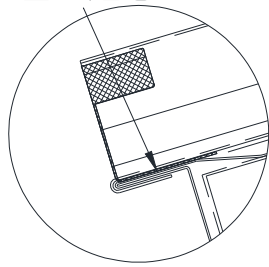
7-6 各部の納め[新築用](参考)

化粧棧鼻(先付け内サンパナ) (取付要領)

屋根本体を軒先唐草に摺り込む前に
先付け内サンパナの羽根部を軒先唐草と
屋根材の間に差し込みます。

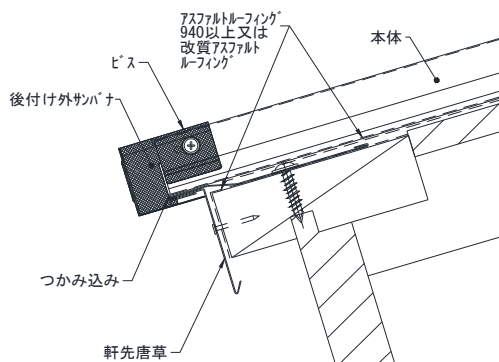
屋根本体を軒先唐草に摺り込む
ことで、先付け内サンパナを固定します。

羽部を唐草と屋根
本体の間に差し込む

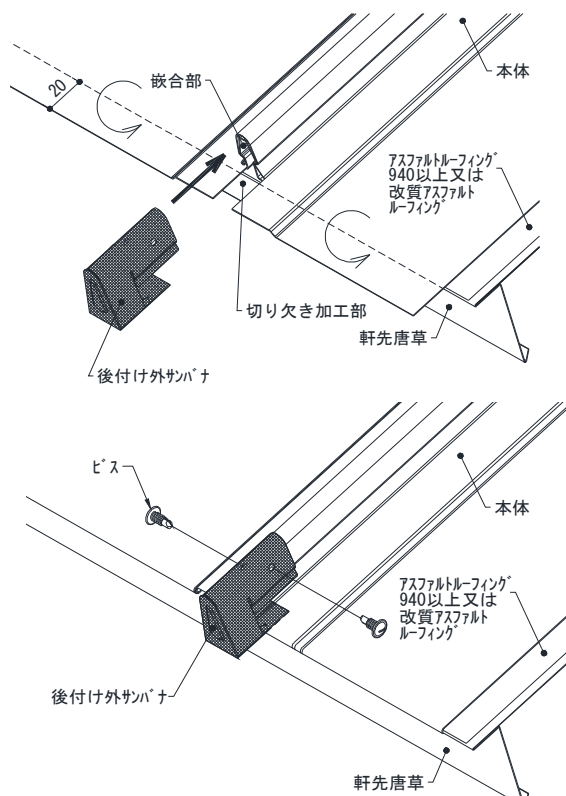


化粧棧鼻(後付け外サンパナ) (取付要領)

屋根本体を軒先唐草に摺り込み、後付け外サンパナ
を被せます。



※ビス止め用の孔が後付サンパナの
左右に付いていますので、ビスで固定してください。



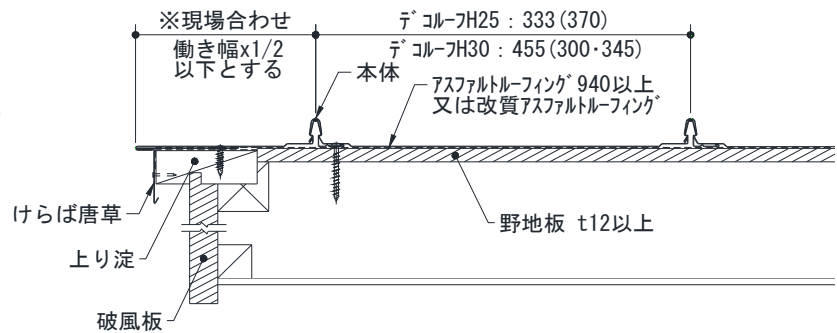
7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

けらば (唐草仕様)

屋根本体をけらば唐草に組み込みます。

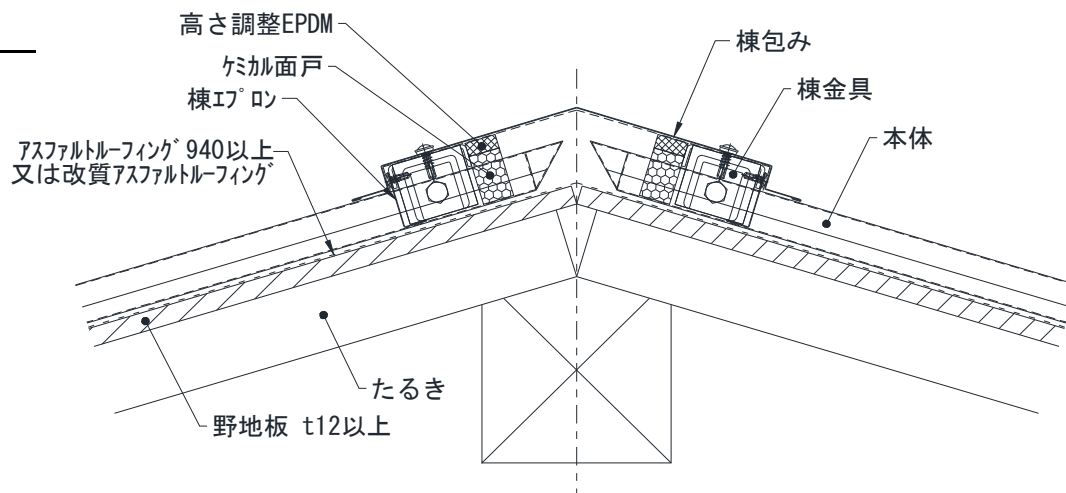
けらば端部の屋根本体は現場合わせですが、本体働き幅の1/2以下となるよう割り付けてください。



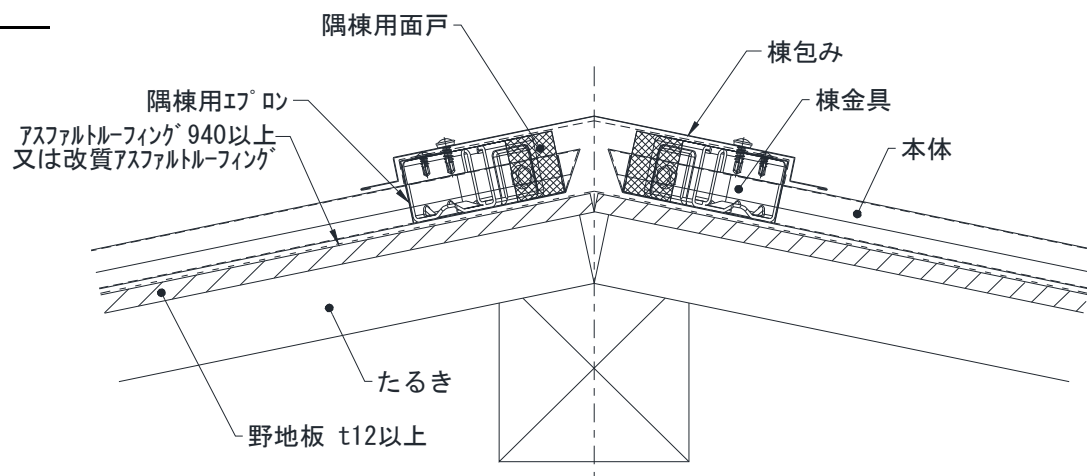
7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

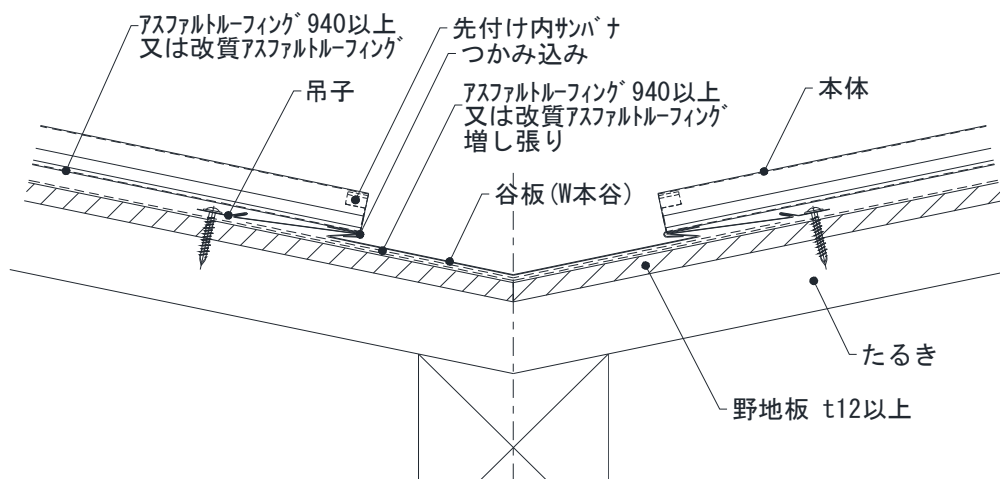
主 棟



隅 棟



谷仕舞い



7. 新築屋根

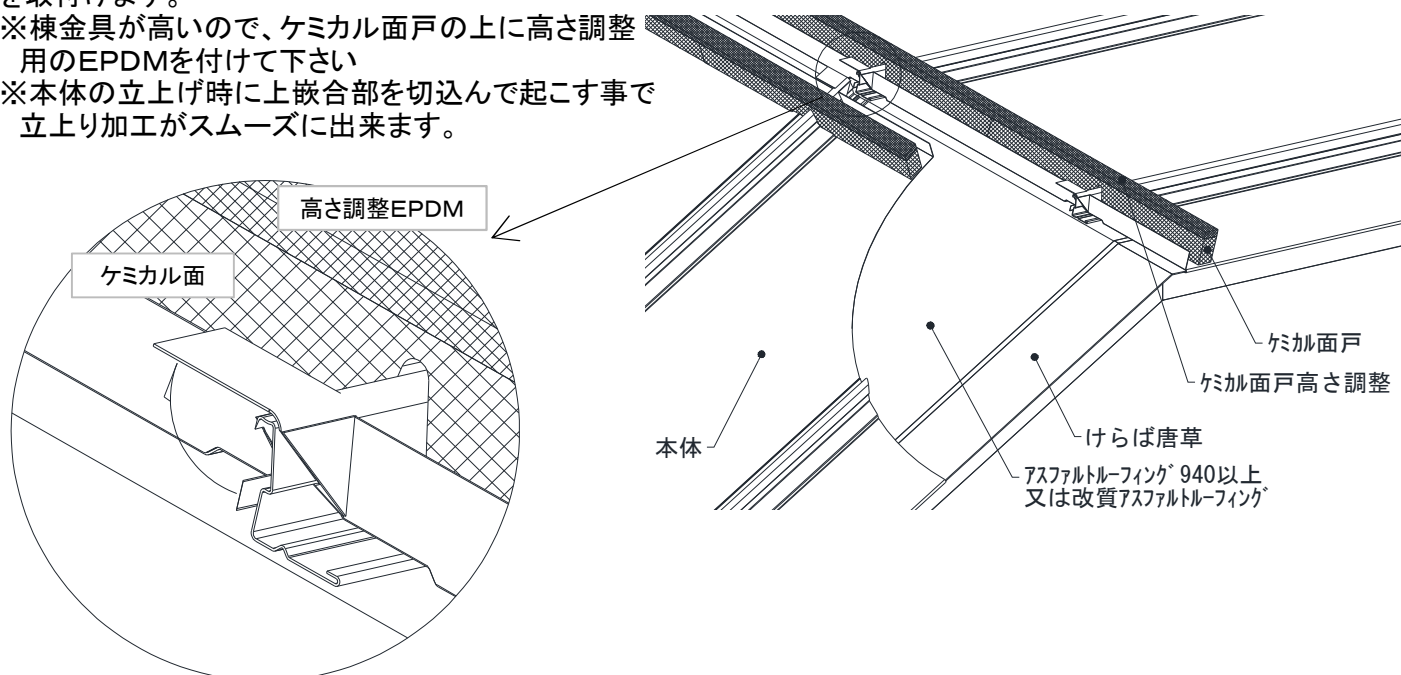
7-6 各部の納め[新築用](参考)

主棟(棟金具)

屋根本体の水上部を立上げて、止水用のケミカル面戸を取付けます。

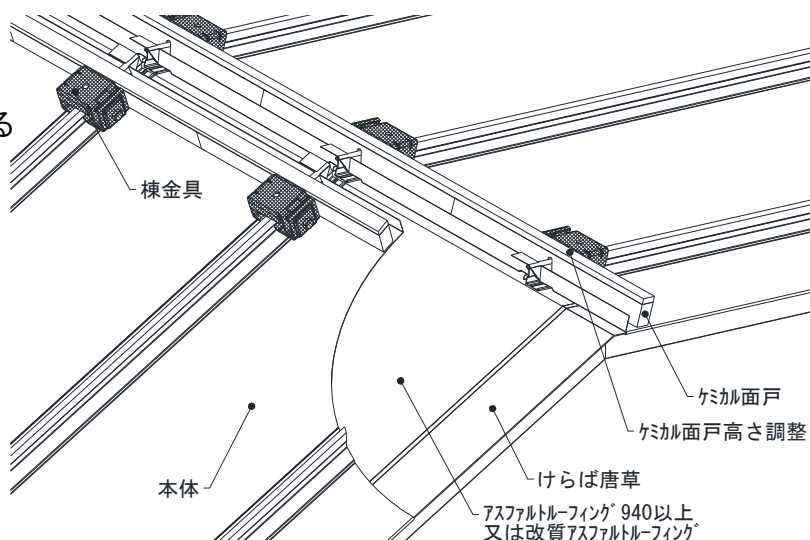
※棟金具が高いので、ケミカル面戸の上に高さ調整用のEPDMを付けて下さい

※本体の立上げ時に上嵌合部を切込んで起こす事で立上り加工がスムーズに出来ます。



ケミカル面戸の水下側に棟包みに合わせて棟金具を取付けます

※棟金具の締め込み強さは嵌合部の変形による水密性低下の原因となる事がありますので締め過ぎに注意して下さい。

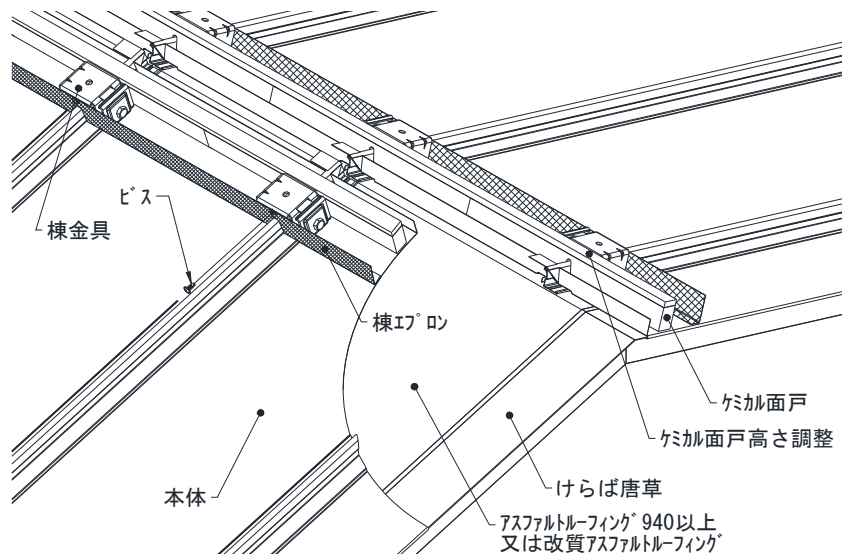
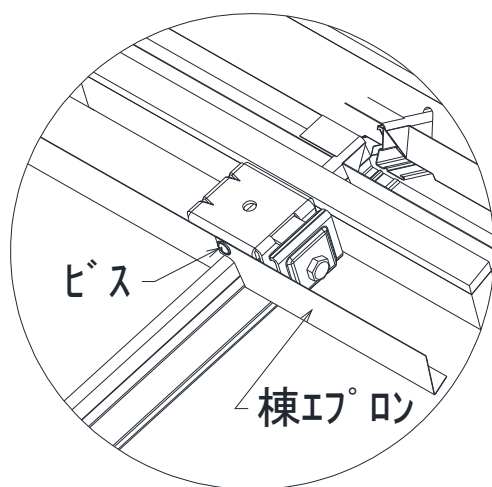


7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

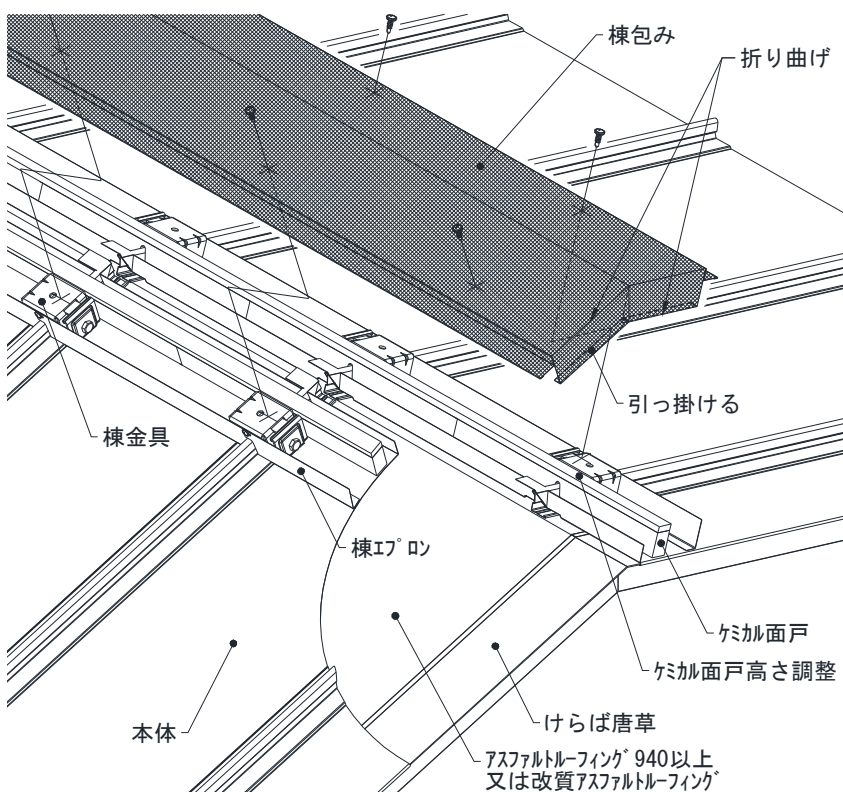
主棟(棟金具)

棟金具の水下側の立下り部にエプロン面戸をビスで取り付けてください。



棟包みは通リよく被せて、ビスで棟金具にしっかり取り付けてください。

※棟の端部は折り曲げてけらば唐草に引っ掛けて納めます。



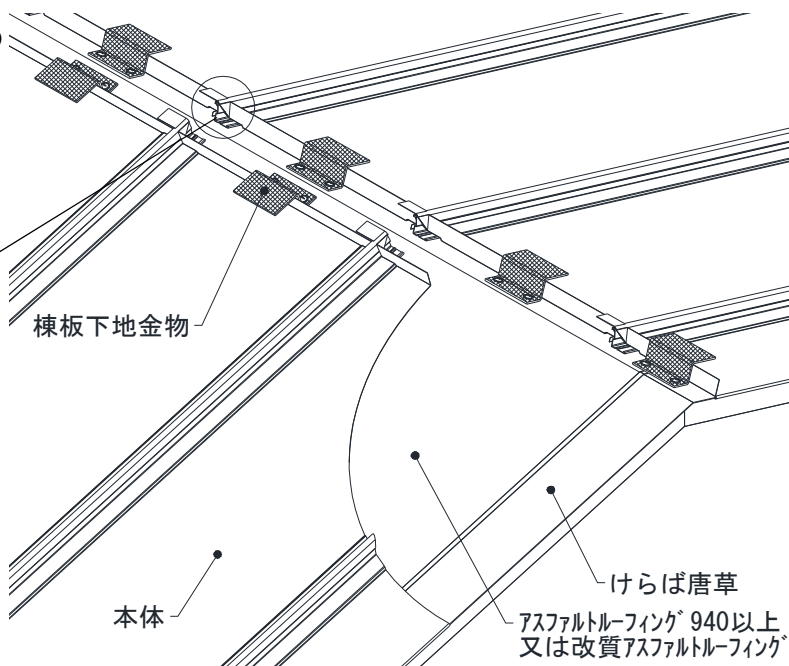
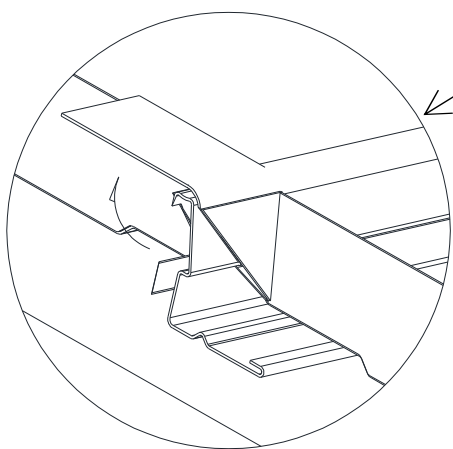
7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

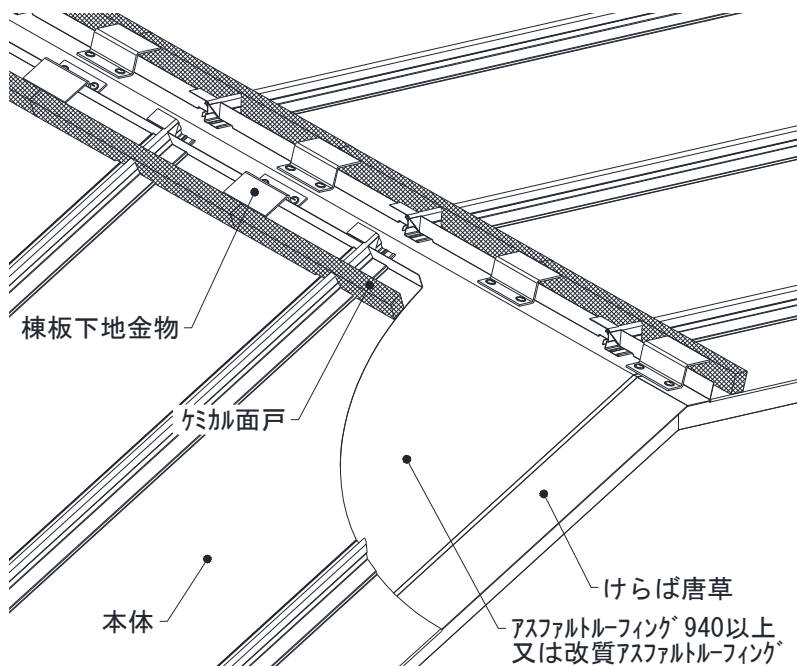
主棟(棟板仕様)

屋根本体の水上部を立上げて、棟板取付け用の下地金物を取付けます。

※本体の立上げ時に上嵌合部を切込み起こす事で立上り加工がスムーズに出来ます。



ケミカル面戸を取付けます。



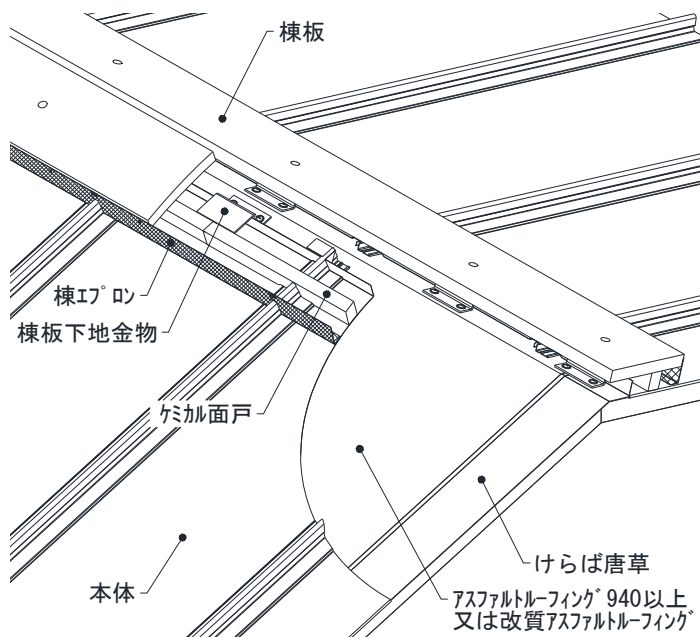
7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

主棟(棟板仕様)

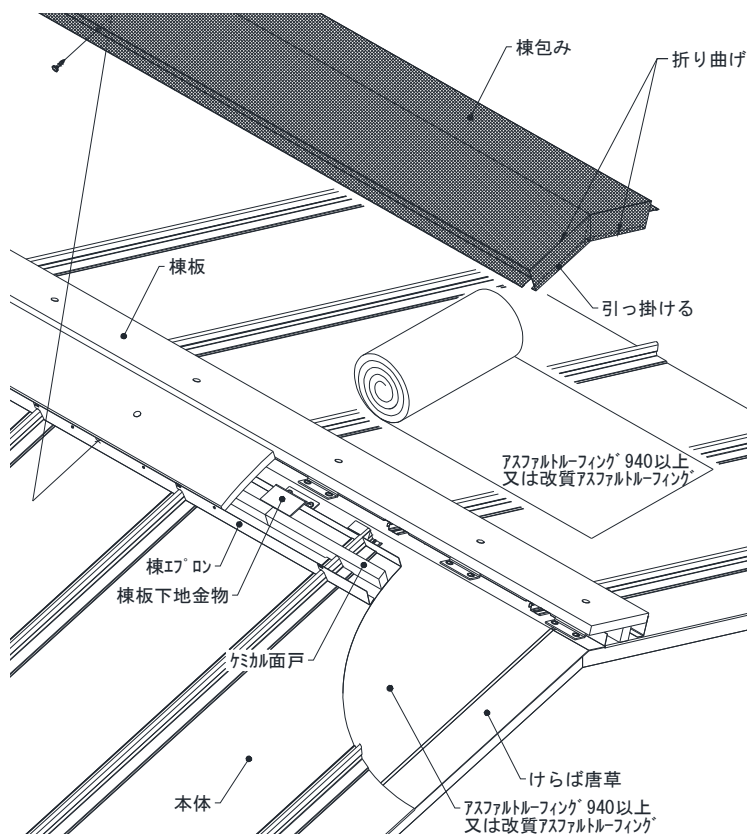
棟板下地に棟板を取付け、エプロン面戸をビスで取り付けてください。

※棟板の上はアスファルトルーフィング940程度の防水紙を敷き込んでください。



棟包みは通リよく被せて、ビスで棟板に端部にしっかり取り付けてください。

※棟の端部は折り曲げてけらば唐草に引っ掛けて納めます。

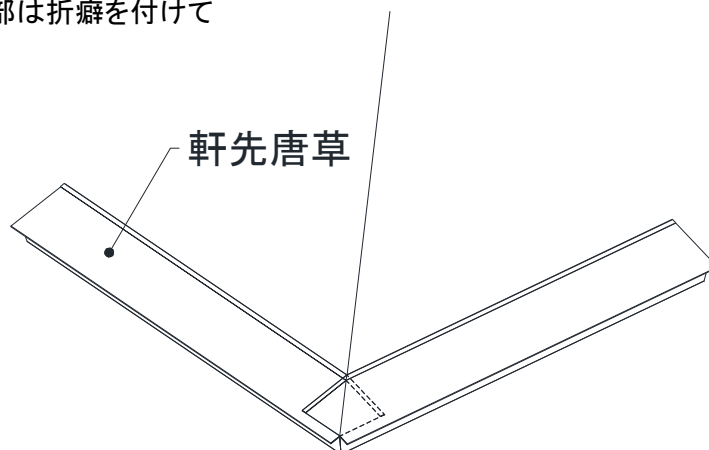


7. 新築屋根

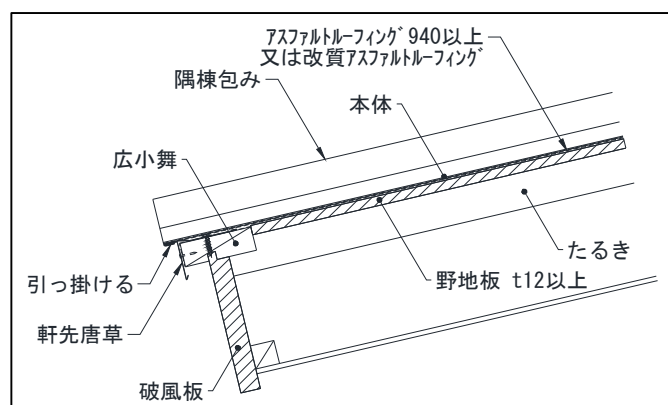
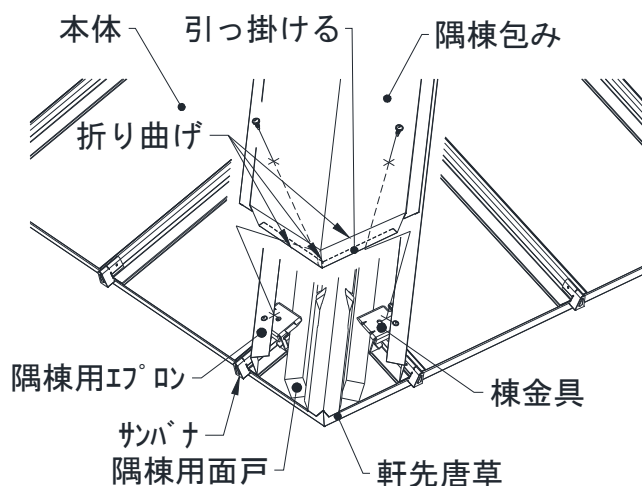
7-6 各部の納め[新築用](参考)

隅棟

軒先唐草の見切部を残し、屋根面をカットし見切部は折癖を付けて軒先の出隅角度に合わせて曲げ込みます。



屋根本体は、隅棟に合わせて立上げ加工を行い、隅棟用の面戸を取付けます。
嵌合部の最頂部に棟金具を取付けて隅棟用のエプロン面戸をビスで取付け、軒先の小口加工を施した棟包み(隅棟)を被せて棟金具にしっかりとビスで固定します。



※隅棟の軒先端部は小口加工を施し、軒先唐草に引っ掛けて屋根本体は軒先唐草に括み込みます。

7. 新築屋根

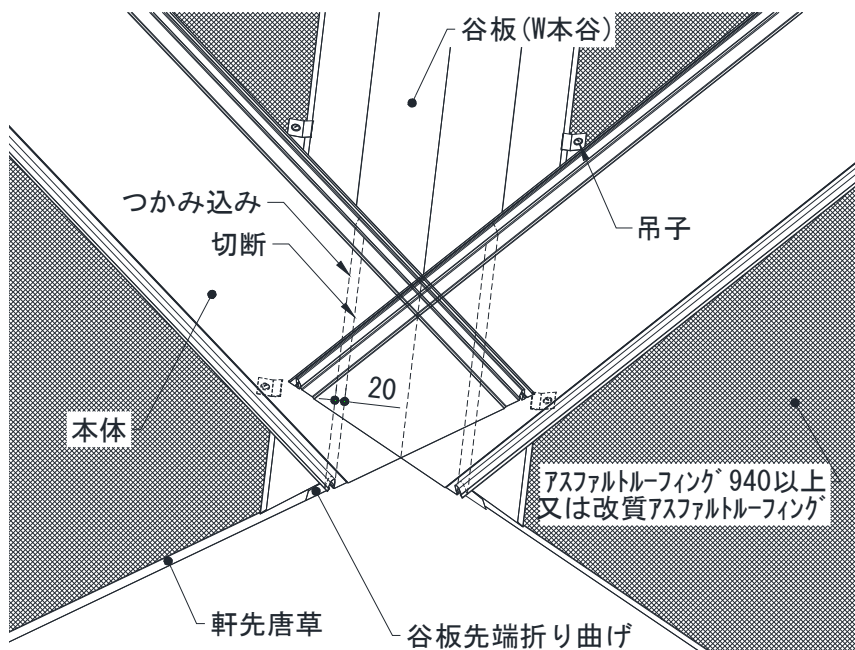
7-6 各部の納め[新築用](参考)

谷部の納め

谷板(W本谷)は谷の中心になるよう谷板に穴を空けないよう、本体同材で作った吊子で固定してください。

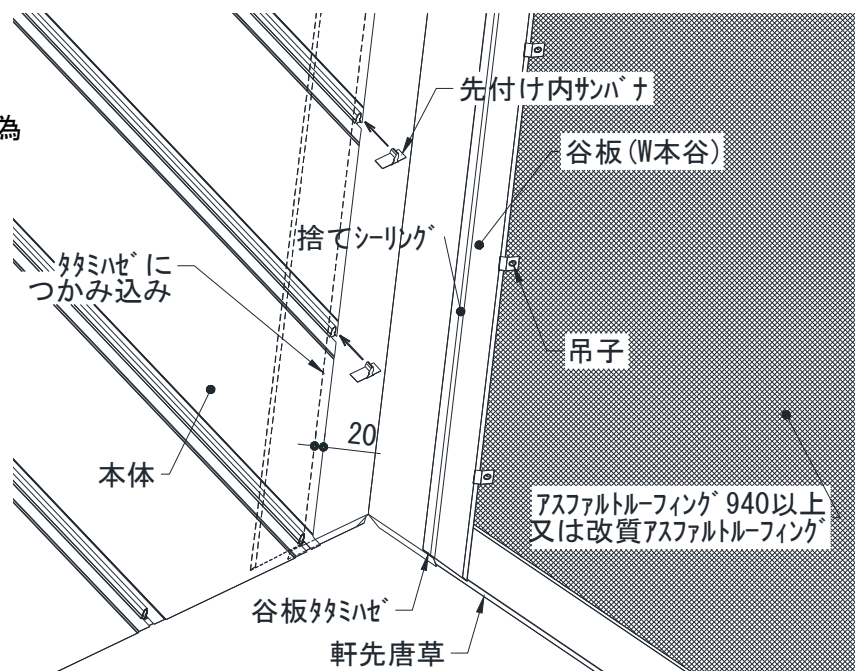
本体は谷板のタミハゼより掴み込み代20mmを残し切断します。

谷板の軒先部は、水が切れるように折り曲げてください。



谷板のタミハゼから30mm程度上部に捨てシーリングを施し、本体をタミハゼに引っ掛けながら葺きます。

先付け内サンパナの場合は、後で入らない為本体を葺きながらセットしてください。



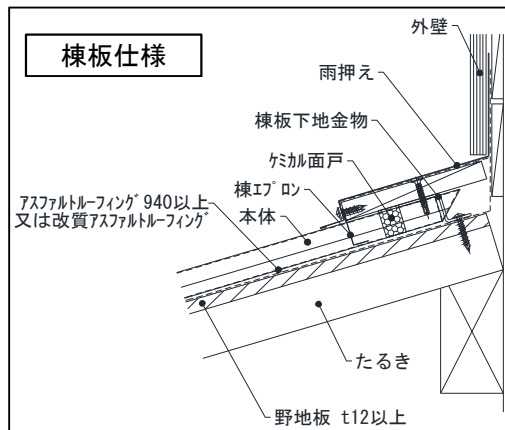
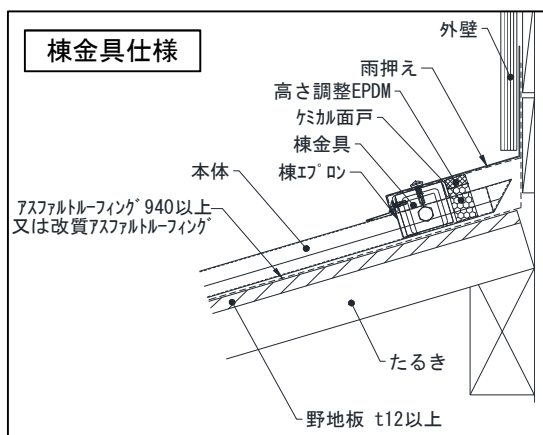
7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

正面雨押え

棟納め要領に同じく納めてください。

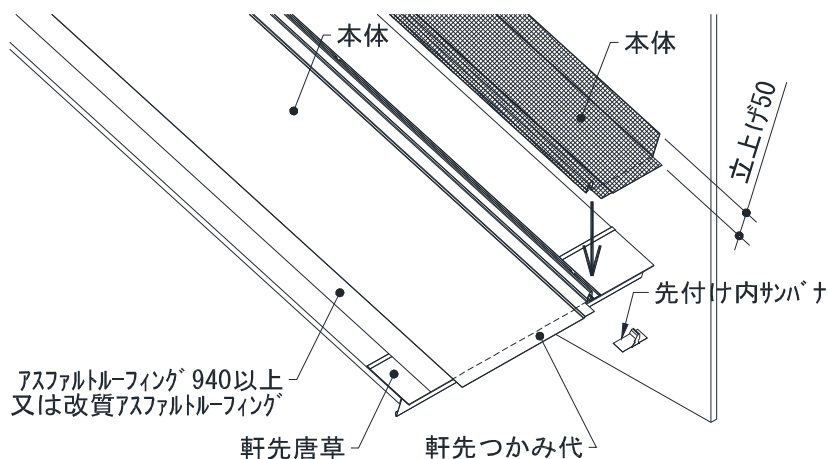
※雨押え立上りは120mm以上を推奨しています。



7-6 各部の納め[新築用](参考)

壁取合(妻側)

立上り寸法に合わせ屋根本体を50mm程度立上げ、本体に嵌合させてください。

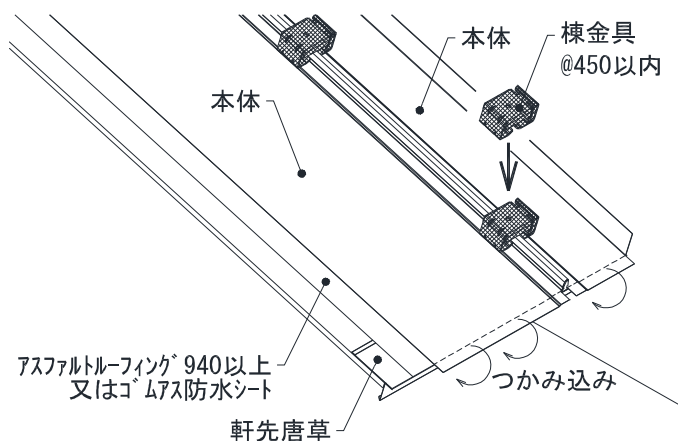
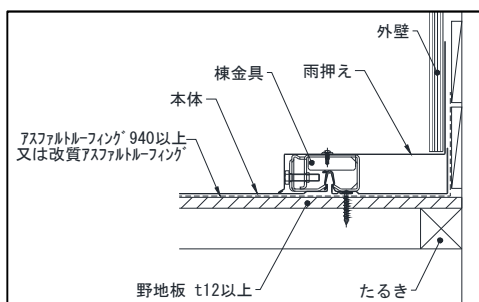


7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

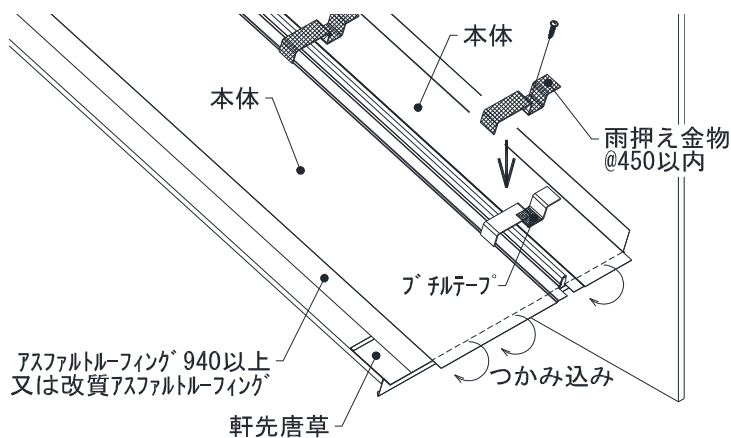
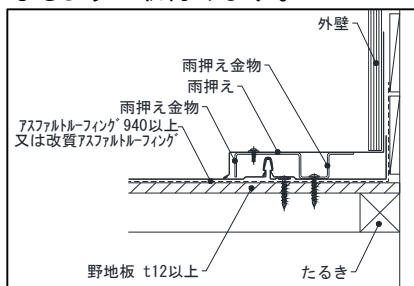
壁取合(妻側) (棟金具)

ケラバ端部の立上げ済みの本体を嵌合させた後、嵌合部に棟金具を@450mm以内となるように取付けます。



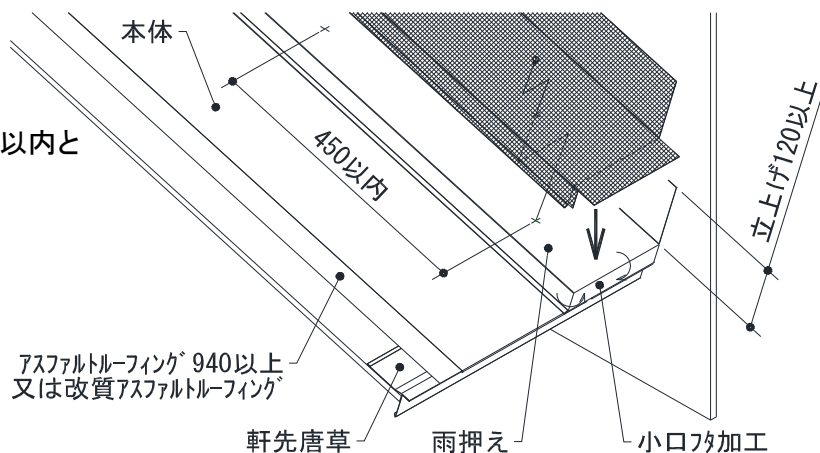
壁取合(妻側) (雨押え金物)

ケラバ端部の立上げ済みの本体を嵌合させた後、板金用ブチルテープを挟み込み雨押え金物をファスナーで@450mm以内となるように取付けます。



壁取合(妻側) (雨押え)

雨押えを本体に被せ、ファスナーで棟金具又は、雨押え金物にファスナーで@450mm以内となるように取付けます。



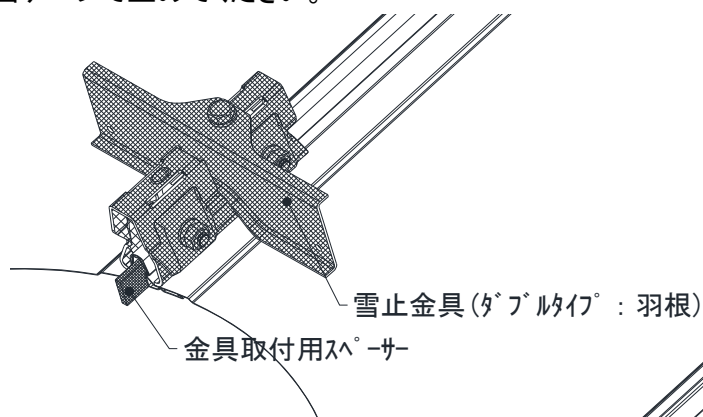
7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

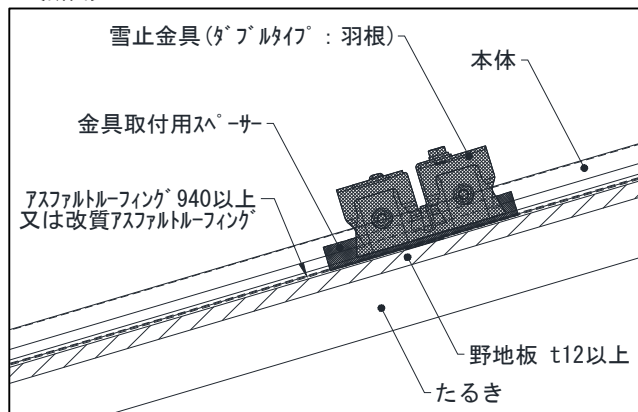
雪 止

雪止め金具を取り付ける場合に嵌合ハゼ部の潰れを防止する為に使用する事を推奨しています。

金具取付用スペーサーは、予め屋根本体の裏面に金具位置をマーキングし、裏面から差し込んで両面テープで止めてください。

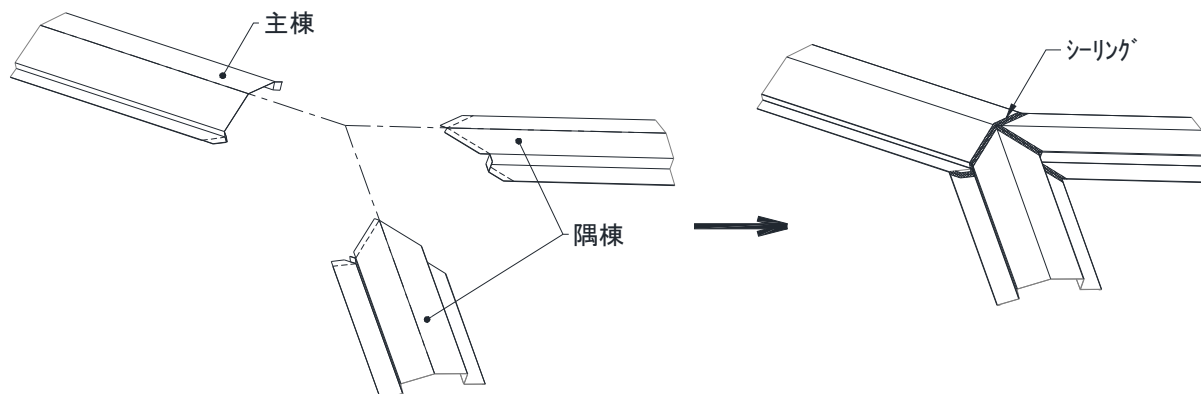


〔断面〕



三つ又棟

1. 棟カバー端部を現場加工してください。
2. 加工した棟カバーを両隅棟、主棟の順に勾配に合わせて取り付けます。
3. 三つ又合わせ部を確実にシーリング処理してください。



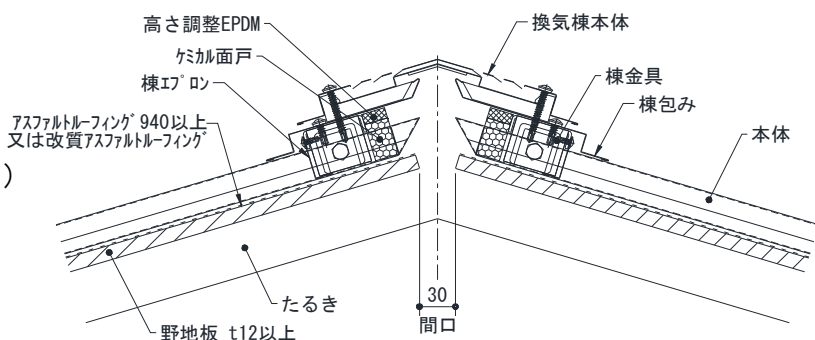
7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

換気棟

(レギュラータイプ)

野地板に30mm開口をとります。
開口部に捨て切りと下葎き材を取り付けます。
棟包みを取り付けます。
(但し、換気棟開口部には取り付けません。)
換気棟本体を取り付けます。
なお下地材は本体にセットされています。
棟包みと換気棟の重なり代は70mmとし、
必ず防水パッキンを使用してください。
(3×30mm)

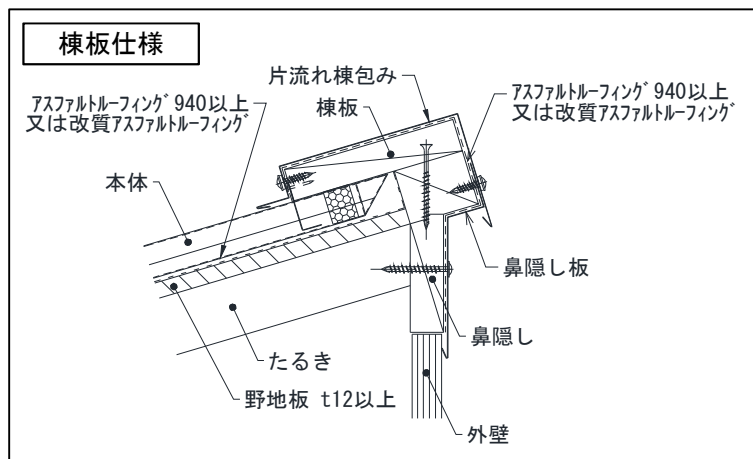
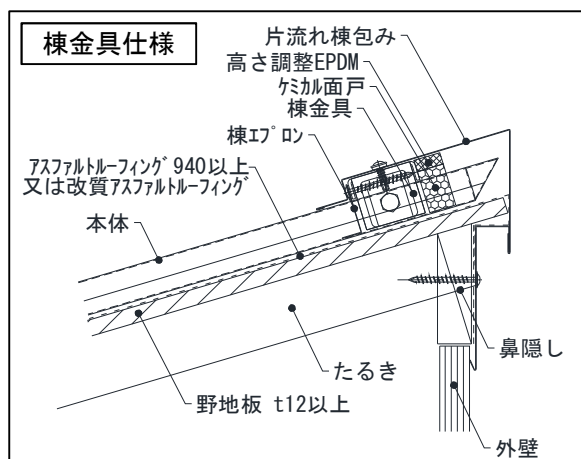


注意

- 換気棟は切らないでください。
- 換気棟同士を直接つながないでください。(中間に棟包みを入れてください。)
- 換気棟の上には絶対上がらないでください。(換気不良、雨漏れの原因となります。)

片棟包み

棟納め要領に同じく納めてください。



7. 新築屋根

7-6 各部の納め[新築用](参考)

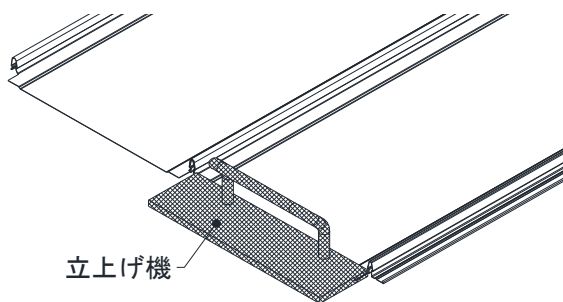
掴み込み専用工具（軒先、ケラバ）

※軒先の掴み込みは専用工具を使うと早く、美しく仕上がります。

- ①立上げ機にて軒先の掴み込み部分を立ち下げ
- ②掴み込み機にてしっかりと唐草巻き込みます。



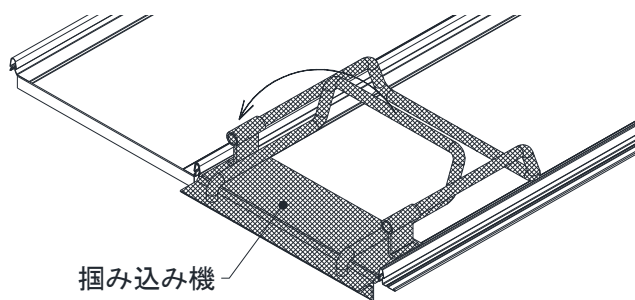
軒先の掴み込み



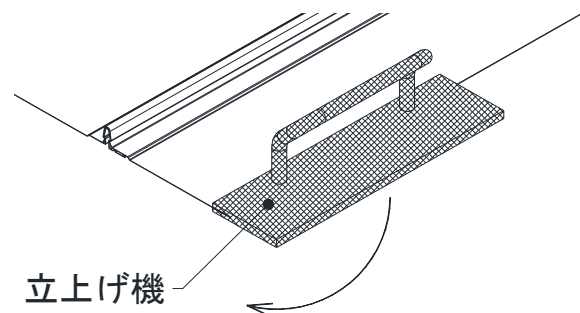
立上げ機



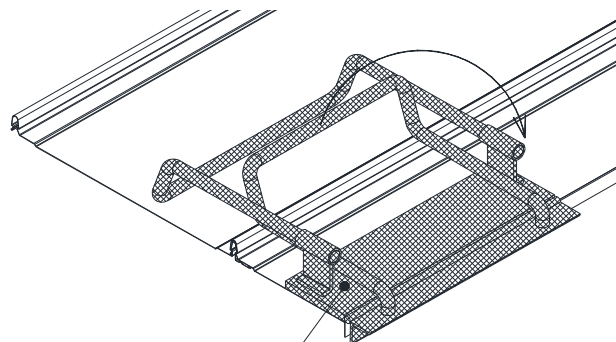
掴み込み機



ケラバの掴み込



立上げ機



掴み込み機

8. 施工後の注意

点検・補修・清掃

**施工後は屋根を美しく、また屋根の機能・品質を維持する為に
必ず点検・補修・清掃を行ってください。**

1. 屋根面を歩く時は、静かに歩くよう注意してください。
尚、棟包み、ケラバ包み、ジョイント部等の上には絶対に乗らないでください。
2. 屋根面に傷を付けないように注意してください。
万が一傷を付けてしまった場合は、必ず指定の補修塗料を塗ってください。
3. 他の構築物や金具等の取付施工中の汚れ、ゴミ、屑等は、きれいに清掃してください。
清掃の際は、柔らかい物で、塗装に傷等が生じない物を使用してください。
またシンナー等は塗膜を破壊する恐れがありますので絶対に使用しないでください。
4. 鉄板の切粉、切りくず、及び釘等を屋根面に放置すると、もらい錆の原因となります。
必ず完全に除去してください。
5. 屋根各部に小鳥や蛇が侵入する穴が残っていないか再点検し、もしあれば対策してください。

※記載された試験データは弊社で実施した試験データの一例であり、その結果を保証するものではありません。

※当該技術資料に掲載されている仕様等は、予告なく変更することがあります。

※本資料に掲載された内容の無断転載や複製は法律で禁止されています。